

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	秋鹿 都子	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)	
学位授与番号	甲第122号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	食物アレルギーを有する乳幼児を養育する母親の食物アレルギー対応力に関する研究	
審査委員	教授 三徳 和子	教授 伊東 美佐江
	教授 津島 ひろ江	教授 中新 美保子

博士論文内容の要旨

本論文の目的は食物アレルギー乳幼児を養育する母親の食物アレルギーに対応した生活を円滑に遂行する能力(以下、食物アレルギー対応力)と関連要因、およびQOLの実態を明らかにし、食物アレルギー乳幼児を養育する母親の食物アレルギー対応力の向上に向けた支援を明らかにしていくことである。第1章では、先行研究から、食物アレルギー乳幼児の母親が食物アレルギーに前向きに取り組んでいく力を獲得するためには信頼性・妥当性のある評価尺度を作成し、食物アレルギー対応力や関連要因およびQOLの実態について明らかにする必要があることを明らかにした。第II章では食物アレルギー乳幼児を養育する母親の食物アレルギー対応力の測定尺度を作成した。尺度は「ストレス対処」、「除去食技術」、「医療者からの情報収集」、「食物アレルギーの知識」、「夫の協働」の5因子17項目で構成され、信頼性と妥当性が確認された。第III章では食物アレルギー乳幼児を養育する母親を対象とした質問紙調査から、食物アレルギー対応力は、母親の健康状態、家族の健康状態、育児以外の生活全般上のストレスと共にQOLの予測因子であることが明らかとなった。第IV章では、食物アレルギー乳幼児を養育する母親と、食物アレルギーを有さない母親にWHOQOL26を用いて質問紙調査を行い、両者のQOLは差がないこと、食物アレルギー乳幼児を養育する母親のQOLには母親自身と家族の健康状態、育児ストレス、育児以外の生活全般上のストレス等が関連していることを明らかにした。総括では、食物アレルギー乳幼児の母親の食物アレルギー対応力向上に向けた支援のあり方を述べた。

博士論文審査結果の要旨

研究結果から、食物アレルギー乳幼児を養育する母親の食物アレルギー対応力の向上を支援するためには「ストレス対処」、「除去食技術」、「医療者からの情報収集」、「食物アレルギーの知識」、「夫の協働」に目を向けた支援を提言し、看護の役割に言及している。食物アレルギー乳幼児を養育する母親の食物アレルギー対応力に着目し、子どもの食物アレルギーの有無による母親のQOLと関連要因を明らかにした研究は非常に少ない。本論文は、西日本3県での調査ではあるが、科学的根拠に基づ

いた支援について、具体的に示した点で優れており、新規性がある。博士学位論文発表会においても適切に回答がなされた。